

全国大学造形美術教育教員養成協議会メールマガジン 2025.3.1 第90号(毎月1日発行)

## 「一版一色木版画制作の指導について」



岐阜聖徳学園大学 教育学部 保育専修  
准教授 桂川 成美

### 1. 学生に一版一色木版画の制作指導をしている

教育学部の3年生を対象に一版一色木版画の制作を行なっている。一版一色木版画は、普段行わない技法と馴染みのない道具や材料を使って制作するため、絵の作り方や道具の扱い方などを知る機会が少ない。ハガキ版のととても小さな版ではあるが、この授業で一通りの制作過程を経験できるようにしている。

一版多色木版画との違いや、主な制作過程、絵作りの要点、用具の扱い方など、知って欲しいことが多くあるが、それらを伝えつつこの手法の良さや面白みを体験してもらいたいと思っている。

しかし実際の指導の場面では、なかなかこちらが意図したことが伝わりづらいようで、学生は不安そうに何度も制作過程を見せにきて、これで良いかと尋ねる。何度かやりとりするうちに、徐々に理解して自身で制作を進められるようになる学生もいるが、途中で考えることを投げ出してしまうような学生もいる。

一版一色木版画制作の良さや面白さを体験できるように実施方法を工夫してみたことや、そこから考えたことなどを述べようと思う。

## 2. 一版一色木版画の制作過程

一版一色木版画の制作過程と要点は以下の表のような流れである。

表1 一版一色木版画制作の過程と要点

過程	要点
描くものを考える	一版一色木版画と違い一色で摺るため、彫った白と彫らない黒と、色々な彫刻刀の彫り跡を生かしたグレー（白と黒が混在する面）で絵をつくる。イラストレーションやマークなどすでに形が単純化されたものは、白と黒の塗り分けのみになりやすい（彫り跡が生かされにくい）ため、描く対象として避けたほうが良い場合が多い。
版木に転写する	画用紙に描いた絵をトレーシングペーパーに写し取り、裏返して版木に固定して線をなぞって転写する方法と、反転させた画像を版木と同サイズで出力し、カーボン紙を挟み版木に固定して線をなぞって転写する方法を選択する。
墨入れ	マーカーペンや墨汁、絵柄が細かい場合や修正の必要がある場合は鉛筆で、黒くするところと白くするところ、彫り跡を生かすところを転写した版に描く。
薄墨塗り	彫り忘れを防ぐため、彫ったところと彫っていないところが分かるように薄めた墨を全体に塗る。
彫り	安全な持ち方と使い方で、彫りの浅さ深さ、長さや向きを工夫しながら彫る。
刷り	刷りの場所の作り方を知る。用具の名称と役割、使い方を知る。刷りのデモンストレーションを見て解説を聞き要点を押さえながら、試し摺りと本番用の和紙に摺る。

### 3. 一版一色木版画制作の要点

一版一色木版画制作の絵をつくるための主な要点は、刀の彫り跡を生かすことと、描く対象の形を構成する、彫った白と残した黒と彫り跡のグレーを組み合わせる絵柄に見えるようにするとともに色調を構成することである。

そのためには、具象を説明するように描くのではなく、対象の形や色を手がかりに簡略化して再構成する必要がある。

版画の授業を行うと、時折 “普通の絵は苦手だけど版画は得意” と言ってこられる方がある。これは、具象を説明するように描くことが苦手な人が、版画というある意味詳細に描き出すことは不可能な手法によって構成する力を発揮し、思わぬ良作が出来上がり、得意だと感じるのではないかと思う。

### 4. 一版一色木版画制作の難しいところ 何が分からない原因か 指導の工夫

最初は制作過程に沿って注意点や要領を伝えながら制作を進めたが、墨入れがうまくいかない。墨入れは彫り跡の階調で絵をつく

る一版一色木版画制作において最も重要な制作過程と言える。木版は彫れば元には戻せないため、彫るべきところを分かるようにしておかないと、黒であるべきところを白くしてしまうかもしれないので、あらかじめ版木の上に示しておく必要がある。ま



図 1 墨入れをした版

た、画面上の黒と白と彫り跡によるグレーのバランスの良し悪しは、想像でどうにかできるほど簡単ではないため、目で見て自分の感覚で良いかどうかを確認する必要がある。

黒いところと白いところを画像を参考にして決め、黒いところを塗り、黒と白以外のところを彫刻刀の彫り跡に似せて描くようにすれば、あとは自分で版木上の絵の様子を見て

良し悪しを判断して絵をつくることができると思ったが、決められなかったのか話を聞いていないのか墨入れを完成させずに彫り始めてしまう人が複数いた。

また、墨入れの時に、黒いところは彫るところか残すところかと尋ねる人が多数おり、描くことと彫ることの関係に対してかなり混乱していると思い、黒く塗った版木に白い材料で描かせて、描くことと彫ることを一致させる方法を試した。しかし、白い色を入れる方法に変えても黒で描く墨入れの時と同様だった。そのことから、描くことと彫ることの不一致による混乱が要因ではないかかもしれないと思った。そうではなくて、白黒で描くと自体が分からないのかもしれないと思った。

デッサンの心得がある人にとって、物に輪郭線はなく描かれたそれぞれの部分の明度や質は周囲との関係によって決まるということの理解は容易だが、そうでない人にとって絵を描くことは、輪郭線で物のシルエットを描き輪郭で分けられた中を色塗りすることだと捉えていることが多く、単色で背景と対象や複数の物の関係を描き出すことはイメージしづらいのだと思われる。

そういった問題を小学校ではどのように解決されているのかを図画工作での一版一色木版画の指導の方法をいくつか見てみると、対象の周囲を彫り、対象を黒く浮き立たせるように限定して進める方法や、対象を黒く表すか白く表すかを選ばせてそのどちらかに限定して進める方法などがあつた。自分が小学生の時も、“中を彫るか、外を彫るかどちらか決めて描きなさい”と指導されたことを思い出した。

## 5. 一版一色木版画の要点をできるだけ理解させ、制作する人の感覚に委ねてできそうなところまでガイドする

デッサンを知らない人に単色で絵を作らせようとする時、背景と対象をあらかじめ白と黒で分ければ、描く対象が無計画な彫り跡の中に紛れてしまうことを防げる。しかし、それは大きく構図を限定することにもなる。本人の絵から遠ざかり、“木版画ってこういうも

の”という作り方に陥りそうな不安を感じる。実際に自分が小学生だった時のことを思い出すと、なぜそうしなければいけないのか分からず、かといって直接筆などで描くこととの違いをどうして良いかも分からず、思うように描けなかったということが印象に残っている。

墨入れの過程で、黒と白と彫り跡によるグレーの構成を考えると、同じ色同士が隣り合う中に輪郭線を加えただけでは描き出そうとするものと周囲の区別がつかないと

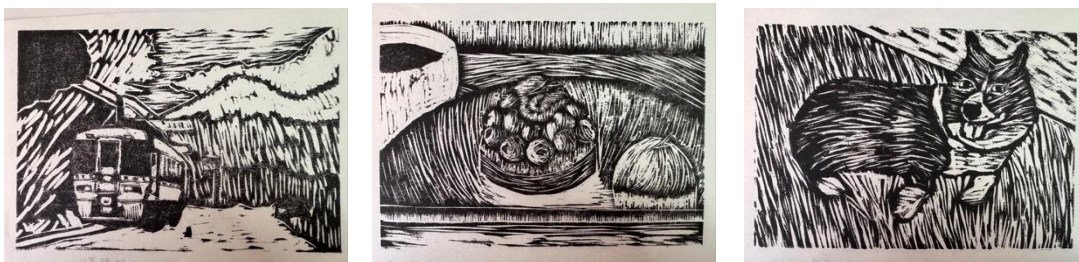


図 2 学生の作品

いうことを説明して、輪郭線を挟んで隣り合う面の色や彫り跡の様子が同じにならないように工夫することを伝えてみた。今のところはこの伝え方が構成を考える上で必要なことが最も伝わりやすいように思う。

また、描くものを考える前に彫刻刀の安全な持ち方や使い方に慣れることと、彫り跡を使って絵をつくるイメージを持つために彫りの試しを行ってみた。彫ること自体は心地よさがあり、彫り跡を見ることも新鮮さがあるため学生は興味を持って取り組んでいた。今後は、下絵ありきで制作を始めるのではなく、試した彫り跡から絵や図をつくることを試みようと考えている。



図 3 彫り跡の試し